

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894700034		
法人名	株式会社カマダグループ		
事業所名	グループホーム家族の家		
所在地	兵庫県美方郡香美町香住区一日市926番地		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	平成30年〇月〇日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2-2-14		
訪問調査日	平成30年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者さんをご自宅でご暮らしいただける様な生活を送れる事をモットーとしている。 ・利用者さんにとり、安心して心地よい介護に努める。 ・近くに日本海・香住の町並みと絶好のロケーションに囲まれ、自然散策にも事欠かさず。また近くには香住病院・消防署もあり、緊急時においても安心・安全な好立地「香住山手地区」に位置しています。
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>①理念・方針に基づく運営・「その方がその方としてその方らしく暮らしになられるようお支えします」を事業所理念とし、入居者の「安心と尊厳」を守り、今迄通り「地域の中の一員として」暮らしをいけるよう、ご本人の「今」を受け入れ支援している。②様々なプログラムの工夫と提供・日々の暮らしの中での生活レク(散歩・買い物、洗濯もの干し・たたみや食器拭き、外気浴にリズム体操、塗り絵や折り紙、季節飾り制作等)、手作りおやつ、稲の栽培から収穫・脱穀・精米・おにぎり作りまで、様々なボランティアの協力による季節行事やレクリエーション、希望者による外出プログラム(出身地区へのお祭りや行事見学、花見、ドライブ、文化見学等)、高校生との交流等、入居者が選択できるプログラムが提供されている。③家族・地域とともに・町(役場)と連携しての緊急措置入所支援や日中一時支援(障害者のための)への協力や地域交流、家族の訪問頻度も高く、家族がボランティアとしても協力してくれている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その方らしくお暮らしていただけるよう個別ケアを意識しながら接しています。悩んだ時の尺度としてすべての職員が、共有し実践しています。	事業所理念を基軸に、入居者が「自分らしく」、安心と尊厳をもち、あるがままに地域の一員として暮らしていけるよう、職員全員が同じベクトルでその実現に向けて取組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催されるイベントの情報を得て、ご利用者と共に、地域に出向いて交流の機会を持っています。高校生体験活動、大正琴などのボランティアの方の受け入れを行っています。	近隣商店での買い物、様々なボランティア(調理、大正琴、ハーモニカ演奏、行事協力等)の協力、地域行事への見学・参加(夏祭り・神輿し、護摩木供養等)、高校生との交流等、地域に根差した日常が展開されている。	今後も、地域の方々との協力をいただきながら、地域における社会資源の一つとしての定着を目標に、事業所発信の積極的な活動を増やしていけることに大いに期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事にできるだけ参加し、言葉を交わすことが、一歩ずつ理解や支援に繋がっていくのではと思ひ実践しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、会議を開催し、活動内容や事故報告、消防訓練内容を報告し、参加者様よりいただいたご意見を取り入れ、サービスの向上に努めています。	会議では事業所情報のみの発信に留まることなく、「災害時対応」、「感染症対策」、「看取りケアについて」、「地域交流(高校生の職業体験受入れ、ふれあいサロンについて)」等、様々なテーマについて意見交換を行い運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの担当者に参加していただき、判断が難しい事や困難な事例について随時、指導、助言をしていただいています。	町(役場)、地域包括支援センターとは連携を深め情報の共有・課題の相談等を行っている。また、事業所を「緊急入所支援及び日中一時支援」の「場」として提供している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、自分が行っているケアが、適切であるか注意しあって見過ごさないように意見交換しています。玄関の施錠は、行っていませんが、事故防止のため、人感センサーを取り付けています。	職員は勉強会・事例検討(日々のケアの振り返り含)により「身体的拘束等の弊害」を理解し、「入居者本位の日常」となるよう、さりげない見守りと言葉かけに留意しながら支援している。玄関口は日中は解錠している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	漁師町という地域柄、方言がきつく、不適切な言葉使いにならないように注意し合っています。虐待の未然防止として、職場会議において研修の機会を持ちお互いに注意しながら取り組んでいる。	会議の場において勉強会・研修、事例検討を行い、「不適切なケア」のレベルからの払拭に取り組んでいる。また、職員間コミュニケーションを大切に、「孤立化」「バーンアウト」が無いよう、風通しの良い職場となるように努めている。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用しようと考えておられる方があり、職員が後見人と関わる機会があるので、関心を持ちながら職場内研修を行ないました。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方はおられないが、職員は制度活用が認知症高齢者にとって有用な支援方策の一つであることを理解しており、状況に応じて家族等へ情報を提供している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学の時におおまかに説明し、契約前に契約書、重要事項説明書を持ち帰っていただき、前もって目を通して質問など準備しやすいように配慮している。	入居後に不具合が生じないよう、事業所見学、アセスメント、質疑応答等を実施し、疑問点・不安感がない状態にして契約を締結している。契約時には関連書類を丁寧に説明し理解していただいている(重度化・終末期への対応方針含)。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族への毎月の通信でご利用者の近況報告や行事の写真を添えてお知らせしています。必要に応じて電話などで随時、連絡を取っています。意見箱も設置しました。	運営推進会議、家族会、行事参加時、来訪時、電話、意見箱等、様々な機会を設けて意見・要望を聴き取っている。いただいた意見等は直ちに検討し、フィードバックするとともに運営に活かしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、日々のケアの中で、その都度、意見や提案を聴取しています。できることは検討し、反映に繋げています。	定例会議において、業務面の振り返りと見直しを行っており、各種委員会の意見も踏まえて事業所運営がブラッシュアップするよう取組んでいる。また、管理者との個別面談も実施され提案等も吸い上げられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、毎月の職場会議に出席し、勤務状況や職場環境等の意見を聞き、状況把握に努めてくれている。何かあれば直ぐに掛け付け相談にのってくれているので安心して働ける環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の人員不足により、受講する機会が以前に比べ持たなくなっています。月に1回実施している、職員会議の時に、虐待、身体拘束、成年後見制度など法人内研修を行なっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流する機会は設けておらず、今後は互いの事例等話し合い、意見交換できる場を設けていきたい。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中での発言や行動、表情から、本人の思いを汲み取れるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にメールやFAX番号を伺い、ご本人の様子など初期には、まめに連絡をとるようにしています。要望を聞き出しやすい関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用前の面接時、生活状況などの情報収集に努め、ご意向やご要望を確認しながら緊急性や優先順位を見極めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者のこれまでの人生や経験されたことを教えていただく姿勢で接し、利用者さんの能力を活かした役割分担を図り、共に支え合う関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会来訪時には担当職員との面談も勧奨し、ご家族と利用者さんの絆づくりの一環として「共に考える姿勢」を保持したいと努めています。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人との面会や、住んでおられた場所へのドライブを行なっています。ご家族にも墓参りや自宅への帰省について協力を得て行なっています。	家族との外出(食事、買い物、法要、通院同行)・外泊(盆・正月等)、友人・知人の訪問、出身地区の行事への参加・見学、季節のお便り(暑中見舞い、年賀状等)投函等、今迄の個々人の生活感ができるだけ長く継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士、お世話し合っておられることを大切にしています。ご夫婦の方もおられますが、他のご利用者との関係は良好です。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族にその後の状況をお聞きしたり、入居先へ面会に行かせていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、できること、できないことを把握するように心がけています。言葉で表せない方は、仕草や表情から気持ちを理解できるよう努めています。	入居者お一人おひとりとの係わり(会話、言動把握、仕草・表情等)の中から、ご本人が望む日常となるよう、その思い・意向を汲み取っている。キャッチした情報は申送り、連絡ノート等で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームでの日常的な会話の中で得られる情報やご利用中の記録でも把握し、支援に活かせるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活ペースで過ごしていただくため見守りのみを行う場合もあります。過度な介助をしないように配慮しています。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常のご利用者の様子はケース記録に記入していますが、介護計画書に沿った支援記録、モニタリングにつながるよう努めているところです。	入居者の思い・意向、家族の要望・意見(聴き取りシート活用)に介護職員の意見を踏まえ、ご本人の「今」にマッチした有用性の高い介護計画を作成している。毎月のケアカンファレンスによりプランの見直し等へ繋げている。	今後も「本人本位」の視点を介護計画の基軸とし、ご本人の「思い・ニーズ」の把握に努められ、本人を含めた関係者(チームワーク)で、その達成を目指すことに期待をします。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者一人ひとりの日々の様子を個別に記録しており、気づきや情報を共有し、ご本人の望むサービスに近づけるよう介護計画を見直しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者はもとよりご家族にも満足していただけるよう、通院支援、買い物支援など、できる限りのお手伝いをしています。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者の出身地区のお祭りには、できる限り参加しています。地域の方の優しさに触れることで、地域の一員であることを感じていただいています。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医をそのまま継続していただいています。受診は、基本的に家族対応をお願いしています。予定外の受診、急変時の場合は、職員が対応し、医療機関にお連れする。また直ぐに家族に連絡行い病院に来ていただきます。	内科への定期受診・急変時の受診は家族と協同している。専門医は入居前のかかりつけ医を継続している方もおられる。歯科については口腔ケアを含めて月1～2回の訪問を受けている(希望者)。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の体調の変化があった際は、非常勤の看護師が勤務しているので、看護師に相談し、適切な処置や受診を受けられるようにしています。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は家族との連絡を密にし、お見舞いに行き、医師や看護師から本人の様子を知るようにしています。退院後の生活を家族と相談しながら対応しています。	入院中は入居者の不安感軽減のため職員が面会し、家族と情報を共有している。病院とは早期退院を目標に連携し、退院時にはホームでの暮らしに不具合が生じないよう情報を入手し、支援に活かしている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に医療的処置(入院治療)が長期に必要となればグループホームでは対応できない事を伝えていきます。自然な形でターミナルは行っています。今年8月に看取りを行いました。重度化した場合どうするのか、本人、家族、職員、担当医師と話し合いをしました。	入居者に重度化・終末期の状況が生じた場合には、事業所で「できる事」「難しい事」を明確にし、ご本人にとって望ましい支援・「生」となるよう関係者(本人・家族、医療専門職、事業所等)で相談・検討しながら取り組んでいる。この一年では1名を看取らせていただいた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応については、消防署等指導の下に緊急マニュアルを作成し、実地訓練に取り組んでいます。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いの下での消防訓練を行い、全職員が防災意識を高められるように努めています。	定期(年2回)の通報・消防・避難訓練(日中帯・夜間帯想定)を実施している(消防の立会あり)。有事には地域の協力が得られる状況となっており、地域の防災訓練にも参加している。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修を行い、不適切な言葉使いやケアについて職員同士で注意しあっています。ご利用者の尊厳を尊重するため意識改革に取り組んでいます。	入居者個々人の現況及び自尊心・羞恥心に十分配慮しながら、ご本人が今迄で培ってこられた事柄(技能、趣味、習慣等)のうち、できる部分をご本人のタイミングで体现できるよう支援している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の半数以上が、自己決定できるため、月に1回は、自治会を開き、食事のメニューや行きたい所、やりたいことなど、個々に意見を出し合える機会を持ち、要望に添えるように支援している。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の都合に合わせることなく、ご家族や知人と過ごす時間を持ち続けていただくことを大切にしています。毎週、娘さんと外出される方もあります。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の移り変わりには、ご家族にお願いして衣類の入れ替えをいただいています。行きつけの美容院を利用される支援やホームにて理容師によるサービスを受けられています。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を取入れたり、お誕生日には、本人のご希望の献立にしています。おやつは手作りに心がけ、後片付けも利用者と一緒にしています。	全食手作りの「食事」を提供している。調理のお手伝い(包丁、皮むき、盛付け)や食器拭き、洗い物等を職員と会話を楽しみながら行っている。行事食(おせち、母の日、クリスマス等)、手作りおやつも喜んでおられる。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量を毎回、記入しています。食事量の少ないご利用者には、できる範囲ですが、好きな物を提供させていただいています。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや介助により、口腔ケアの実施を行い、誤嚥性肺炎予防のためなど、清潔保持に努めています。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、早めのトイレ誘導を行うなど、尿意等残存能力保持を大切に取り組んでいます。	入居者の現況及び排泄パターンとそのサインを把握し、ご本人にマッチした方法(声掛けのタイミングや同性介助等)によりトイレでの排泄が行えるように支援している。夜間帯は睡眠等との兼ね合いで、ポータブルトイレやパット交換を利用される方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をつけながら個々にあった緩化剤の調整をしています。果物を提供する回数を増やしたり、水分摂取量の確保に努めています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴の機会を持っていただいています。受診の前日には、入浴していただくように曜日を変更し、柔軟な対応をしています。	週2回の入浴を基本に、ゆっくりゆったりとした入浴時間となるよう支援している(職員との会話や同性介助、車椅子の方も湯舟に浸かる等)。また、季節湯(ゆず湯等)も喜んでおられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方らしく、お暮らしいただけるよう個々の生活ペースで、休んでいただいています。居室の位置も配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	適切に服薬できるよう手渡しし、服薬されたことを確認している。薬が変更になった場合、体調に変化がないか職員全員で注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者一人ひとりの特性、趣味を把握し、洗濯物たたみ、食器拭きなどの役割を持って頂いています。、野菜を切ったり、得意な巻き寿司作り、おはぎ作りもしていただいています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の要望により、タクシーに乗り、近くの娘さん宅へ行かれる外出支援を行っています。図書館に本を借りに行きたり、近くのスーパーまで散歩がてら買い物に行く外出支援もしています。	日々の散歩や買い物、庭の草花への水遣りや玄関前スペースでのティータイム等、外気に触れる機会が多い。出身地区の行事見学やドライブ、季節の外出(花見、文化展見学、花火鑑賞等)、希望者でのお出かけ(音楽会、クレーン船見学、焼き肉店等)等、適度な刺激となるプログラムも実施している。	入居者のADLの低下や個々人の想いも違い、個別対応にも工夫と労力が求められることと察します。今後もご家族等の協力も含め、「利用者の思いに沿った外出支援」の継続に期待をしています。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理が可能な方のみ少額、所持していただいておりますが、ご家族の希望で基本、立替えの方法で行っています。</p>		
51			<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>お誕生日、母の日など、ご家族から送られてきたプレゼントに、お礼状を書いていただく支援をしています。、不穩時には電話を架けさせていただけるよう事前にお願ひしています。</p>		
52	(23)		<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>天井が高く開放的で風船バレーが楽しめる。季節感折紙で季節に合った花を作って飾っています。</p>	<p>スロープのついた玄関口、木の温もりが感じられる天井が高く開放感のあるリビングフロア、掘り炬燵が設置された畳敷きの小上がり、季節飾りや「書」が貼付された壁面等、四季の移ろいを感じることのできる共用空間となっている。</p>	
53			<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>畳スペースに大き目の堀こたつがあり、3~4人の気の合った方たちが集り雑談されています。</p>		
54	(24)		<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>その方らしさが出せるよう家で使用していた家具や置物、アルバムなどを持って来られたり、今まで、読まれていた新聞をとりたいと要望があれば、自由にいただいております。</p>	<p>使い慣れた馴染みの大切なもの(テレビ、ソファ、人形、飾りつけ、置き物、仏壇・位牌等)を持ち込み、個々人の居心地の良い居室となるよう支援している。ADLの変化へも、設え等を工夫しながら対応している。</p>	
55			<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>転倒防止に備えバリアフリーになっており、ドアはすべて引き戸方式を採用し、少しの力で開閉でき、洗面所等も幾分か低くなっており環境整備に努めています。</p>		